

# Bridges

夏休み期間も、本校生が海外研修を始め、いくつかの国際交流事業に参加しました。今回は、参加生徒の感想文を中心にお伝えします。

## 【本校生がダラス市を訪問】

◎林 君 (高校2年)

今年の夏、僕は、仙台市と友好都市であるアメリカ合衆国テキサス州ダラス市を訪問した。

現地では、9日間のホームステイをしながら、現地の方や高校生と日米交流、異文化理解を深めてきた。現地の方々はとても温かく迎えてくれた。空港では、「ようこそ、〇〇くん」や「はじめまして、〇〇ちゃん」などの簡単な日本語を用いたボードを掲げていた。日本とは異なったお客さんの迎え方に最初は戸惑った。

ダラスに着いた日の夜、ホストファミリーと共にメジャーリーグの試合を観戦した。三塁側ベンチのすぐそばの座席を用意していただき、本番の雰囲気には圧倒された。ほとんどの夜にとる食事はバーベキューだった。味付けはされていない肉そのままの味だった。一切れが大きく、香りも日本とは違った。次の日、僕は日本から持ってきたそうめんをホストファミリーにごちそうした。初めて口にする味で、作り方などをメモを取りながら聞いていた。

その翌日からは市内観光が始まった。中でも印象に残っているのは、シックスフロアミュージアムとストックヤード見学だった。

シックスヤードミュージアムと

は、アメリカの元大統領ジョン・F・ケネディが暗殺された現場である。当時、教科書倉庫だった建物の6階から殺害されたことからこの名前がついた。暗殺された現場には道路の上から白のバツ印がついていた。事件の数日後に犯人も殺害されたため、謎の多いこの事件にとっても興味を持った。

テキサスと聞いて、カウボーイを思い浮かべる人は多いと思う。ストックヤードとはカウボーイの発祥の地である。当時、戦いの間にカウボーイたちが体を休めにきた場所がこのストックヤードである。大通りにも大きな馬に乗ったカウボーイたちがあちこちにいた。なまりのある英語で話しかけられ何度も聞き直した。

また、今回の訪問にあたって事前に仙台市長を表敬訪問していた。その際に預かっていたダラス市長への贈り物をダラス市役所へ行って市長へ渡してきた。市長へのインタビューで、「仙台市とはこれからもずっとこの関係を続けていきたい。」、また、震災に関しては、「もっともっと復興に向けて前進してほしい。」とおっしゃっていた。一方、学生やホストファミリーにはあまり震災のことは知られておらず、たくさんの質問をされた。

最終日にはフェアウェルパーティーが開かれた。そこでも日米交流をした。侍、七夕、あいさつなどたくさんのことに興味を持っていた。最後には、盆踊りをして一緒に踊った。「簡単で楽しい」と大いに盛り上

がり大好評だった。

帰りの空港でダラスの人たちは泣いていた。また会うことを約束した。

この訪問で、あまり視野に入れていなかった海外留学も考え始めた。現地の人々の温かさ、そして、国際友好都市であることからこそつながれた大切な仲間。これからは大切に、たくさんの人にこの体験を伝えていきたい。

## 【第32回海外研修報告】

7/22(水)～8/10(月)の20日間、16名の生徒が、第32回海外研修に参加しました。ホームステイ、教会キャンプ、市内研修を行い、実りある研修を終えることができました。以下に、参加者の感想の一部を紹介させていただきます。

◎工藤 君 (高校1年)

海外研修に行くことになった時には大きな不安がありました。それは、ホームステイでホストファミリーとうまく話せるかどうかと、自分の英語力で通じるのかどうかでした。しかし、海外研修で実際にホームステイを始めたら、まず、自分の英語力でも何とか通用することを実感できました。私がお世話になったホストファミリーは3人家族で、小学生の男の子が1人いました。私はホストファミリーはみな親切そうで安心しましたが、まだ緊張していたため、あまり上手なコミュニケーションが出来ていませんでした。しかし、毎日一緒に生活をしていく中で親しくなっていくことで、徐々に会

話の頻度も増えていき、英語を話して相手に通じた時の嬉しさを実感しました。それと同時にホストファミリーが自分に対して興味を持ってくれていることが分かりました。特にホストファミリーの息子はとても私と仲良くしてくれ、よく一緒に遊んでくれたりもしました。そして最後ホストファミリーとの別れの日、私はホストファミリーへの感謝でいっぱいでした。そして海外にとっても信頼できる親しい人を持つことが出来たことをとても嬉しく思いました。私は本当に良いファミリーと出会えたと思っています。

ここまでで海外研修の半分が過ぎました。この時点で私は自分の英語に自信を持っていました。そのおかげで次のキャンプでは初対面の子供たちと積極的に接することができ、現地の子供たちととても楽しい時間を過ごせました。そして最後の市内研修ではその成果が出て、とても良いものになりました。私は、海外研修の経験を通して、自分の英語力に自信を持たただけでなく、物事に対する視点を変えることができました。海外研修は自分にとってとても良い経験になりました。海外研修への参加を考えている人は、勉強や将来への意識を変えるととても良い機会だと思うので、ぜひ参加してみてください。

◎加茂 君 (高校1年)

研修に行く前アメリカという広大な場所へ家族とではなく、1人で自分の英語力で相手に気持ちを伝える事は、とても難しいことでした。しかし、最初は簡単な英文法や、単語を使って話を進めていきました。そうすると相手は自分の意図をくみ取ってくれ、その中で英語が上達

していくのが分かりました。最初は、英語の発音に誤りがあるのではないかと、抵抗がありました。また、日本のように会釈というよりは、言葉であいさつをする、それがアメリカなので、そこにも抵抗がありました。それでも、郷に入っては郷に従えという言葉もあるように、簡単なあいさつは必ずしようと努力しました。

アメリカのホストファミリーの方々は温かく迎えてくれて、素直に嬉しいと感じました。毎日、色々なところに出掛けて、英語を使ってとても楽しく思いました。

海外研修はとても楽しく、本物の英語を学べる良い機会となりました。自分の英語力は第一に考えず、行きたいと希望するのかしないのかで、参加を決めて欲しいと思います。そうすればきっと楽しい旅行になると思います。

### 【第33回海外研修について】

第33回海外研修募集開始の時期になりました。今回から「グローバルな貢献を目指して」をコンセプトに、海外研修のプログラムが大幅に変更され、東海岸での実施となります。

新しい海外研修では、「ホームステイ」と「学生寮」という2つの宿泊形態で、「建学の精神を再確認する」「グローバルな課題の解決について考える」「グローバルに貢献するために必要な資質・能力を身につける」という3つの目的で、「校祖ゆかりの地」ペンシルバニア州ランカスターの他、ニューヨーク、ワシントンD.C.、ボストンの4つの都市を訪問します。これまでよりいっそう社会に貢献できる人間を育てることができるようプログラムとなっています。

詳細は、本日配布されるプリントでご確認ください。たくさんの生徒の参加を期待しています。

### 【ホームステイ受け入れについて】

以前にご協力頂いたアンケートの結果、留学生受け入れを前向きに検討して頂けるご家庭が、非常に多いことがわかりました。受け入れ可能なご家庭には、今後こちらからご連絡させて頂く場合があります。ご協力の程、宜しくお願いいたします。

前号でもご案内しましたが、本校では「ホストファミリー登録」を行っています。これは、ホストファミリーをしてくれるご家庭を事前に登録しておくもので、これにより希望に合った留学生を招待できるようになります。

詳しくは国際交流委員の先生までお問い合わせ下さい。

### 【ホストファミリー登録について】

- ・ホストファミリー受け入れ可能として、学校に登録します。
- ・留学生の候補が見つかり次第、受け入れ可能か連絡します。
- ・今回は平成28年度の実施を目指して活動しています。
- ・その後も継続して実施していきたいと思います。
- ・謝礼金（1万円/月）が学校から支給されます。幹旋団体（diBec）からも謝礼金（2万円/月）が支給されます。

### 【英会話教室】

- ・基本的に毎週月曜日に行っています。英会話講師のケヴィン先生と国際交流委員の先生が指導にあたります。
- ・事前申し込み不要なので是非参加してください。
- ・詳細は各教室にある掲示で確認してください。